和名	分類	特徴ほか	会える場所			
ゴマダラチョウ	タテハチョウ科	橙の眼・黄色の口吻	ハイム (中野島)	多摩川土手 (中野島周辺)	生田緑地	その他
			$\triangle$	х	0	全国

AL CO	No.	450	
		320	
	F. 2.		
1			
		M.101	

川崎市 9月13日(2022年) 緑地の桟道の手摺にとまる



川崎市 9月13日(2022年) 湿地のミゾソバの葉上



生田緑地では時折見られますが、近年アカボシゴマダラ(2006年に東京都、2010年以降は関東全域で分布拡大し、生田緑地でもこの10年で急速に増加。温暖化が原因の放ったのが発端と考えられている)が増加しておりまする可能性もあります。関西で過ごした高校時代にオオムラサキとゴマダラチョウの越冬幼虫をとりに行ったことがありますが小型でやせていて驚きました。成虫ではオオムラサキの方がはるかに大きくなります。



ハイム 8月15日(2014年) バルコニーに飛来。 以下3枚 Henk氏撮影



川崎市 7月20日(2020年) 樹液を吸う Henk



川崎市 5月31日(2020年) 羽化したてらしい Henk



川崎市 8月14日(2024年) 多摩川 中野島



川崎市 9月28日(2024年) 多摩川 中野島